

出産・子育て支援に関する 追加提案内容の概要

- ①町による積極的な用地買収・区画整理
- ②出席（登園）停止を伴う子の看護手当
- ③子ども用品リサイクルポイント交換
- ④情報発信事業の充実（目立たせたPR）
- ⑤ボール遊びができる公園の整備（規制の緩和）
- ⑥町職員の勤務に関する子育て支援の充実
- ⑦公園スタンプラリーの実施
- ⑧産後ケア事業（宿泊型）の実施
- ⑨予防接種任意接種助成

出産・子育て応援プロジェクト

令和7年5月

①町による積極的な用地買収・区画整理

(想 定) 所 管 課

都市整備課、企画総務課（土地開発公社）

内 容

○町（または土地開発公社）が直接空き地の購入・区画整理を行い安価に販売する。

理由・意見等

○町内に家を建築しようにも適当な場所が見つからずに転出するという話を聞いたことがある。

○1軒程度しか建てることのできない小面積だと民間不動産事業者は手を付けにくいと考えられるが、町であればできるのではないかと。

○町が販売するが故、「儲け」は不要。その分安価に販売できるし、新築となれば10年単位での居住が見込まれ、税収アップになる。

②出席（登園）停止を伴う子の看護手当

(想 定) 所 管 課

福祉課、こども教育課

内 容

○インフルエンザ等出席停止期間中にかかる看護手当の支給をする。

理由・意見等

○パートタイム就労のひとり親などは、子の出席停止期間中は看護に専念するため収入が得られないが、食料・光熱水費などはかかるため、対象者を限定して看護手当を支給したらどうか。

③子ども用品リサイクルポイント交換	
(想 定) 所 管 課	福祉課 (子育て支援センター)
内 容	
<p>○子育て支援センターで行っている子ども用品のリサイクル提供をポイント化し、ポイントに応じた謝礼をする。 ○謝礼は、町施設の無料利用券 (例：さくらの湯無料券) など。</p>	
理由・意見等	
<p>○リサイクルの促しになると同時に、品数・種類が増えれば子育て支援センターの魅力アップになる。 ○子ども用品は高額 (チャイルドシート、ベビーカーなど) なものもあるため家計的に助かるのではないか (間接的な経済的支援)。 ○提供側も不要になった時の処分に手間がかからない。</p>	

④情報発信事業の充実 (目立たせたPR)	
(想 定) 所 管 課	各課 () は主体となる課
内 容	
<p>①町ホームページに子育て情報を集約した専用ページをアップ。動画もあるとなおよい (地域防災課及び各課)。 ②電子版「(仮称) 山北町子育て応援ガイド」の作成 (福祉課)。 ③山北町にしかない「特徴的な教育」の実施と町内外へのPR (こども教育課)。 ④「箱根・小田原・御殿場」に近いという位置関係から「地の利」を活かしたPR (企画総務課 本プロジェクトで具体的なPR内容については検討できませんでした)。 ⑤所属に関係なく、職員ひとり一人が情報発信の重要性について再認識し、SNSへのアップを常に意識する (全課)。</p>	
理由・意見等	
<p>①子育て支援に関連する情報が、町ホームページのどこに掲載されているのかたどり着くのに苦労する。専用ページがあると探すのが容易になる。 ②電子版の応援ガイドを作成し、受けられる助成・制度、相談窓口、母子保健事業、公園マップなどの情報をまとめてみてはどうか。 ③町の利点 (自然豊か・農林業など) を活かした「特徴的な教育」の実施により、田舎への転入志向が高い都心部の子育て世帯へPRになるのではないか。 ④山北町単独で魅力をPRするには限界があるのではないか。有名どころである箱根・小田原・御殿場に近いという「地の利」を活かせないか (近隣市町の威を借りたおいしいとこどり)。 ⑤子育て世代はインターネット・SNSから情報を得ることが多く、情報発信の重要性は明らか。</p>	

⑤ボール遊びができる公園の整備（規制の緩和）

（想 定）所 管 課

都市整備課

内 容

○ボール遊びは原則禁止されているが、ドッジボールサイズまでの軟らかいボールの使用を解禁する（ぐみの木公園）。

理由・意見等

○現状、向原街区公園（バスケット）、ぐみの木公園グラウンド（野球）以外は原則ボール遊びは禁止となっているが、一定条件の下、ボール遊びを解禁することにより、子どもの遊ぶ場・子どもと遊べる場となり、子育て環境の向上に寄与すると思う。

⑥町職員の勤務に関する子育て支援の充実

（想 定）所 管 課

企画総務課

内 容

- ①自己都合による時差出勤制度の導入
- ②選択的週休3日制の導入（1日の勤務時間を他の曜日に振替え総労働時間は変更なし）
- ③アルムナイ採用（元職員の再雇用）の導入
- ④休日イベント等への使役の見直し
- ⑤子育て中職員の日直業務の免除

理由・意見等

- ①子育て中は、急な発熱などにより、特に朝の時間帯に通常通り出勤できないこともある。その都度年休を取得している状況だが、自己都合による時差出勤を可能とすることで仕事と子育ての両立がしやすくなるのではないかと。
- ②職員人材獲得競争の面からも、子育て中の職員のワークライフバランスの改善にも役立つと思う。東京都などいくつかの自治体で導入済。
- ③自己都合退職者には、介護や子育てが一段落した方や、もう一度働きたい方もいると思われる。再雇用により、予めスキルを身に付けている人材確保に寄与。
- ④職員の参加を前提としているイベントについては、適正な手当の支給としたうえで希望者を募る、ボランティアや外部委託の検討を行う。
- ⑤例えば、小学生以下の子どもがいる職員について日直の免除を検討してもらいたい。可能なら外部委託の検討も。

⑦公園スタンプラリーの実施	
(想 定) 所 管 課	都市整備課
内 容	
○広域公園スタンプラリーの実施	
理由・意見等	
<p>○子育て世帯にとって、子どもが楽しめる公園が近くにあるかどうかというのは子育ての重要なポイントである。しかし、親はとかく「近く」だとか「行きやすい」という観点で公園を探しがちだが、子は「楽しいかどうか」が一番。</p> <p>○そこで、行動範囲の開拓も兼ね、近隣市町の公園スタンプラリーを行うことで、山北町の公園をまずは知ってもらい、魅力を伝え、感じる中で移住・定住のきっかけづくりとならないか。</p> <p>○ただ実施しても意欲が湧かないので、例えば、スタンプ5コで町ゆるキャラグッズの進呈やフォトスポットを設置し、AR（拡張現実）で町ゆるキャラとツーショットなどのお楽しみ要素を用意したい。</p>	

⑧産後ケア事業（宿泊型）の実施	
(想 定) 所 管 課	保険健康課
内 容	
○現在実施している産後ケア事業に宿泊型を導入する。	
理由・意見等	
<p>○現在、訪問型の産後ケアは実施しているが、産後の疲労回復や特に初産の場合の育児手技を学ぶなど、子育て支援に直結すると思われる。</p> <p>○費用はそれなりに高いため、助成額や日数に上限を設けてもよいと思う。</p>	

⑨予防接種任意接種助成

(想 定) 所 管 課

保険健康課

内 容

○全額自己負担とされている任意接種のうち、おたふくかぜ・インフルエンザ予防接種について助成する。

理由・意見等

○子どもの予防接種は多くは自己負担がかからない定期接種とされているが、おたふくかぜ・インフルエンザは接種率は高いが任意接種とされている。

○おたふくかぜは、就学前2回接種で全額補助（2回で1万円程度）、インフルエンザは毎年接種のため、高校受験前の中学校3年生に限定し、全額補助としたらどうか。

○おたふくかぜの県内助成自治体は綾瀬市（3,000円を1回）のみ。